

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

大阪市立北中道幼稚園

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・南海トラフ地震発生確率の見直しが発表されたことで、引き続き発災時に命を守るための行動が行えるよう、地震に対する避難訓練を継続して行った。教職員も時間を知らずに行う避難訓練を経験することで、教職員の連携のあり方や、様々な場面を想定をしながら園児の安全確保について考える機会となった。保護者に対して家庭での防災や備蓄品についてのアンケートを行ったり、大阪市防災アプリや消防署が発行している非常事態時の行動についてのリーフレットを配付したりすることで、保護者の意識を高めることにつながった。今後も発災が起こった際に、園児や自身の生命を守ることができるように、防災の知識や対応できるスキルを身につけられるような避難訓練のあり方や保護者への啓発について工夫をしていく。
- ・一年を通して異年齢児の関わりを深められるように、年間計画を立案し、『わくわくたいむ（異年齢交流 名称）』を行った。様々な活動を全学年で行うことで、互いに親しみや思いやりの気持ちが育まれた。今後も小規模園の強みとして異年齢活動を計画的に行い、園全体で教育活動が進めていくことができるような内容を考え、実践していくことができるようにする。
- ・遊びを通した子どもたちの育ちについて『就学前教育カリキュラム』を活用し、保育案やクラスだよりの作成、月毎のドキュメンテーションの作成の際、子どもたちの育ちについて『知・徳・体』の側面から発信を行った。教員が就学前カリキュラムについて理解をすることの大切さから、研修などを受け、その内容を教職員で周知できるようにした。保護者へも、分かりやすく伝えるための文言の工夫や資料作成などを行うことが教師自身の学びとなった。また、幼稚園での遊びが学びとして、小学校での学習へとつながっていくことを知っていただくために、小学校の先生方に作品展や生活発表会を見ていただく機会をもった。今後も積極的に小学校に働きかけ、教員同士の学び合いや、幼児と児童の交流を含めた円滑な幼小連携・接続が行えるようにする。今後も幼稚園教育を分かりやすく発信するために、『就学前教育カリキュラム』を活用していく。
- ・発達段階に応じて毎月保健指導を行った。発達年齢の違いを踏まえ、保健指導案、細案、絵本やパワーポイント教材、手作りの教材を用いることで、子どもたちが興味をもち、内容を理解することができた。外国につながりをもつ子どもにも分かりやすい視覚教材があることで、楽しんで保健指導を受ける様子が見られた。引き続き、子どもの実態と照らし合わせた保健指導の工夫・実践と共に、教職員間の連携を図り、家庭啓発を工夫していく。
- ・年間計画に基づき、園内研修を行うことで教員の資質向上に努めた。第75回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会（大阪大会）公開保育を行うにあたり、外部講師による園内研修や自園での研修を行った。養護教諭・養護助教諭の資質向上に向け、大阪市学校保健推進体制支援事業を活用し、幼児の発達段階の育ちや教材についてなどについて学ぶことができた。今後も計画的に研修計画を立案し、教職員の資質向上に努めていく。
- ・各学年が学期ごとに高齢者施設に訪問させていただいている。高齢者の方々との交流を通して喜びや思いやりの気持ちを高めることができた。引き続き、継続していく。
- ・地域の方々による読み聞かせ、『絵本の会ピーターラビット』の方に定期的に来ていただくことで、絵本の楽しさや、地域の方との交流を育む機会となった。今後も連携、継続をしていきたい。
- ・幼児の実態を見ながら、保健指導のあり方、環境について工夫すると共に、外部講師を招聘し、保護者向けの教育情報発信についても検討していきたい。

中期目標

【安全な・安心な教育の推進】

- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を90%以上にする。
- 子どもが安心して園生活が送れるよう教職員で共通理解を図り、日々の保育活動に生かし、令和7年度の本園保護者アンケート調査で「子どもは、幼稚園に行くことを喜んでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で、「子どもは教師や友達との関わりを楽しんでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者に対して、基本的な生活習慣が身につくように分かりやすく伝えていきますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の本園教職員アンケートの「園内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的に答える教職員の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を90%以上にする。
- 子どもが安心して園生活が送れるよう教職員で共通理解を図り、日々の保育活動に生かし、今年度の本園保護者アンケート調査で「子どもは、幼稚園に行くことを喜んでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。
- 今年度の本園保護者アンケート調査で、「子どもは教師や友達との関わりを楽しんでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。
- 今年度の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者に対して、基本的な生活習慣が身につくように、分かりやすく伝えていますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 今年度の本園教職員アンケートの「園内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的に答える教職員の割合を90%以上にする。
- 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 昨年1月に南海トラフ地震発生確率が80%に引き上げられた。9月には、地震発生確率が約60%~90%程度と幅があるものの、数値があがった。幼稚園では、昨年を引き続き、地震に対する避難訓練を多く行うようにした。幼稚園、保護者合同訓練も9月、1月に実施をし、保護者への啓発を行った。9月時のアンケートでは、防災アプリ等を活用する割合が低かったが、1月時では活用する家庭が増えた。幼稚園の側には高速道路があるので、避難訓練の際に視覚的掲示物として、阪神淡路大震災時の高速道路倒壊の写真や、東日本大震災時の津波の写真などを掲示し、園児、保護者共に防災意識が高まるように働きかけた。
- ・ 年度当初から計画的に『わくわくたいむ』を計画し、教職員で連携を図りながら実施をした。今年度、第75回造形表現・図画工作・美術教育全国大会（大阪大会）公開保育を行うにあたり、日頃から異年齢交流の中で、製作活動を楽しめるようにした。また、創立60周年を記念して運動会では、異年齢交流『わくわくたいむ』で活動してきたダンスや体操を行ったり、全園児でつくったケーキにローソクを立てるなどして祝ったりすることで、憧れの気持ちや、互いに親しみを感じたり、一緒に活動する楽しさを味わったりした。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 就学前教育カリキュラムを活用し、保育案やクラスだより、月毎のドキュメンテーションの作成を行った。教師も就学前カリキュラムを理解する事の大切さを感じ、研修等を受け、その内容を教職員に伝達、周知することでより学びにつながった。教師が理解をすることで、保護者に対してもより、わかりやすく伝える為の文言や資料作成等を工夫することができた。また、小学校の先生方へ就学前カリキュラムの大切さを知っていただく機会として、作品展や生活発表会での取り組みを見ていただき、小学校への円滑な接続への一歩となった。
- ・ 保健指導では、発達年齢の違いを踏まえ、指導案と共に、細案も立案し、細かな指導を行った。12月終業式には、保護者講話を行った。日頃の保健指導の内容や検診時の事前指導等をパワーポイントを用いて保護者に知らせる事で保護者啓発につながった。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 年間計画に基づき、園内研修を行った。外部講師による園内研修や自園での園内研修、第75回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会（大阪大会）公開保育を経験したことで、『心が動くような環境の工夫』『一人一人が自分なりの表現を楽しめるような援助の工夫』『一緒に遊ぶ楽しさを味わえるような関わり』について学ぶことで、教員の資質向上につながった。又、養護教諭、養護助教諭の資質向上に向けての園内研修も大阪市学校保健推進体制支援事業を活用し、保健指導のあり方や教材等について幅広く学ぶ機会となり、実践で生かすことができた。
- ・ 高齢者施設を訪問し、高齢者の方々との交流を深めている。5歳児は、3年目の活動となり、以前訪問した時のことも覚えていて、親しみをもって関わるできるようになった。
- ・ 創立60周年記念運動会を開催し、園児、保護者、地域の方々と共に園の創立を祝った。幼稚園と地域のつながり、公立幼稚園の存在、園で行っている教育について知っていただく場となった。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を90%以上にする。 ○ 子どもが安心して園生活が送れるよう教職員で共通理解を図り、日々の保育活動に生かし、今年度の本園保護者アンケート調査で「子どもは、幼稚園に行くことを喜んでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。 ○ 今年度の本園保護者アンケート調査で、「子どもは教師や友達との関わりを楽しんでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。 	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>非常災害発生時に子どもも保護者も教職員も自らの命を守れる行動をとれるように、事前・事後を重要視しながら、様々な災害を想定し避難訓練を実施する。</p> <p>指標 ・年10回以上、避難訓練を行い、その内、園児引き渡し訓練を年に2回実施する。 ・年に7回以上研修を受け、教職員間で情報を共有する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>子どもの実態を捉え、教職員間で連携を図りながら、計画的に異年齢で関わる時間（わくわくたいむ）や環境を意識した保育内容を工夫する。</p> <p>指標 年間計画を立て、学期に8回以上、異年齢で関わる機会をもつ。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」・・・ 100% ○ 「子どもは、幼稚園に行くことを喜んでいますか」・・・ 100% ○ 「子どもは教師や友達との関わりを楽しんでいますか」・・・ 100% <p>【取組内容①】について</p> <p>4月・・・火災（非常ベルの音を知らせ、3歳児は4・5歳児の様子を見る） 5月…火災 6月…地震 7月…火災 9月…地震・津波（第1回園児引き取り訓練） 10月…火災 11月…防犯 12月…火災（消防車） 1月…地震・津波（第2回園児引き取り訓練） 2月…地震・津波（抜き打ち） 3月…地震・津波（抜き打ち）実施予定</p> <p>入園・進級して間もない4月は非常ベルの音を知らせ、ベルが鳴った時は、何か危険なことが園内で起きているということや、音を聞いたら俊敏に教師のそばに集まるということを知らせた。特に3歳児は初めての訓練のため、避難方法が分かるように4・5歳児の避難の様子を見学することにした。</p>	

5月には、初めて3歳児も一緒に避難をした。4月の避難訓練を見た経験を活かし、すみやかにハンカチで口を覆って逃げることができた。

6月の避難訓練（地震）では、防災頭巾のかぶり方や、『あそぼうさい』の絵本を活用し、自らの命を守る行動を確認した。

7月は、教職員の瞬時の判断と連携のあり方を考える機会として、園内放送を聞いて初めて出火場所を知り、子どもたちを安全に誘導するという訓練を実施した。放送をしっかりと聞くことや咄嗟に状況判断することの必要性を改めて感じるとともに連携の大切さを再確認した。5歳児は、自分たちで経路を考えたり、今までの経験から姿勢を低くして逃げることを意識したりして避難することができた。また、3歳児にも分かるように火災時に煙を吸わないように腰をかがめて低い姿勢で逃げることを視覚物を見せて知らせた。初めは、ベルの音に驚き、慌ててしまう姿や、ポケットにハンカチが入っておらず煙を吸ってしまう恐れのある子どもいたが、教師の声掛けや、訓練の回数を重ねたことで、放送をしっかりと聞こうとしたり、避難方法を再確認しながら逃げようとしたりする姿が見られるようになってきている。

夏季休業中に、防災のオンライン研修などを受け、教職員で共有した。

9月第1回園児引き取り訓練（地震・津波）を行った。非常持ち出し袋を持って徒歩で迎えに来てくださる保護者も多く、登降園時危険な場所があるかなど子どもと話をするなど気づきの機会となり、保護者アンケートの結果でも防災意識が高まってきている（87%）。

10月の火災の避難訓練では、時間と出火場所を事前に教職員に知らせずに行った。自由に遊んでいる時間だったため、自分の部屋に戻ろうとしたり、上靴を脱いでいる子どもがいたりして、教師、子どもとともに咄嗟の対応や臨機応変に判断ができるように日頃から意識することを再確認した。

11月は、防犯の訓練を実施した。園内に不審者が侵入した時の避難方法を教職員が連携をとり誘導できるように共通理解し行った。誘導の仕方や合図の送り方など振り返り、更に安全に誘導する方法を再検討した。また、今回は、子どもも教職員も対応できるように自由に遊んでいる時に行う予定である。

12月は火災の避難訓練をした。消防署の方に来ていただき避難訓練の様子を見ていただいた。また実際に消防車を見学しながら説明を受け、様々な設備がついていることを知り、消火や救助方法の意識も高まった。

1月には、地震の避難訓練と第2回園児引き取り訓練を行った。大きな地震が頻繁に起きていることをふまえ、阪神淡路大震災時の高速道路倒壊の写真や東日本大震災時の写真を掲示し、啓発を行った。実際に徒歩で参加してくださった保護者もいて意識は高まってきている。2学期のアンケートでは、備蓄をしていますか 85%だったので、3学期は、その結果を踏まえ、保護者の意識を高めるために、アンケート項目を見直した。アンケート結果でもアプリを活用している 46%（2学期 30%）や非常持ち出し袋の見直しをしているか 72%といつ災害が起こるかわからない危機感を感じ、意識が高まっている様子が伺える。

2月は、子どものみ抜き打ち避難訓練（地震）を実施した。

3月は、教職員・子ども対象の抜き打ち避難訓練（地震）を実施する予定である。

教職員が緊急時における対応を共通理解し、実際に声を掛け合い連携をとるよう努めたことで、教職員の意識も高まってきている。

【取組内容②】について

○異年齢交流『わくわくたいむ』について

異年齢の友達との関わりの中で、安心感をもって自分の思いを伝えたり、相手の思いを汲み取ろうとしたりし、思いやりの気持ちが育ってほしいと願い、計画的に異年齢と関わ

りながら遊ぶことができるように、5歳児がリードする形で、集会や体操、ふれあい遊びを積極的にを行い、関わりをもつ時間を週一回設けた。

年度当初は、5歳児が3歳児の身支度の手伝いを行い、継続して関わる機会を大切にしてきた。3歳児は、5歳児への信頼感を抱き、安心して園生活を送ることができるようになった。4歳児は、5歳児とペアを組んで、園外散歩に行ったり、お店屋さんごっこをしてお客さんになって遊んだり、昨年度から親しみのある友達との関わりが更に深まってきたようだ。5歳児は、『わくわくたいむ』の際にどんなことをしたら3・4歳児が楽しむことができるのか、教師や友達と一緒に考え、遊びを進めたことで、5歳児としての自覚が芽生え、自信につながった。

4・5月はふれあい遊びをし、心をほぐす活動を取り入れたことで、子ども同士が園生活の中で自然と声を掛け合う姿が見られた。6月には、3・4歳児と一緒にプール遊びを行った。3歳児はプールの中で顔を水につけたり、潜ったりし、意欲的に活動する年上の友達を見て、憧れの気持ちを持ち、挑戦する姿が見られた。

4歳児は3歳児がいることで、水の中で動く様子を見本となって見せ、年下の友達に認められたことが自信につながった。

『わくわくたいむ』の中でも造形活動として、染紙の活動を取り入れ遊んだ。5歳児が経験したことのある遊びであるため、積極的に3・4歳児に教えたり、「こうやってするよ」と優しく声を掛けて関わろうとしたりする姿が見られた。出来上がった染紙を玄関ホールに飾ったことで、「これつくったやつだ!」と言い、話をする姿が見られた。また、七夕飾りも思いを馳せながら一緒につくり、笹の葉に飾ることができた。

保護者の方からは、幼稚園で異年齢交流を大切にしていることで、憧れの気持ちをもったり、家庭でも異年齢の友達の名前を聞いたり、園生活で異年齢交流が充実していることが分かるという声を聞くことができた。

7月、『わくわくたいむ』の一環で、5歳児がつくった魚釣りゲームを全学年で遊ぶ機会を設けたことで、様々な魚に関心をもつ姿が見られた。4歳児は、5歳児に画用紙の切り方や蛇腹折などを丁寧に教えてもらい、一緒に工夫をしてつくることを楽しんだ。

9月、3つの異年齢グループに分かれて園の60周年(10/1)を祝い、誕生ケーキにたてるローソクと果物をつくった。グループ分けをしたことで、更に親しみを持ち、関わる姿が見られた。ローソクをつくる際、3歳児が作りやすいように5歳児がローソクをもってくれたり、テープを切ったりしていた。5歳児が教えてくれたことで、次は3歳児だけで来賓用のローソクをつくることができた。園外保育でも、異年齢グループで手をつないだことで、憧れの気持ちをもつ姿につながった。

10月の運動会ごっこでは、異年齢と一緒に体を動かして楽しめるようにふれあい遊びを取り入れた。5歳児が見本になって体を動かして楽しんだり、困っている3・4歳児に積極的に声をかけたりするなど、3・4歳児が安心して楽しんで参加することができた。

11月第75回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会(大阪大会)での『絵具で遊ぶ』のコーナーでは、5歳児が遊ぶ様子を3・4歳児が見て真似たり、さりげなく5歳児が3・4歳児を手伝ったり、教えたりする姿が見られた。また、大きな壁紙に5歳児がダイナミックにかく姿を見て刺激を受け、3・4歳児も絵の具でかくことを楽しむ姿が見られた。

『ドングリで遊ぶ』のコーナーでは、いろいろなコースづくりをし、ドングリがゴールまで転がっていくように試したり、工夫をしたりすることを楽しんでた。5歳児がつく

ったコースづくり刺激を受け、一緒に遊んだり、つくったりすることを楽しんだ。

『お店屋さんごっこで遊ぶ』のコーナーでは、5歳児がつくったケーキに3・4歳児が魅力を感じ、教えてもらいながら一緒につくることを楽しんでいた。また、何度か教えてもらう中で自信にもつながり、5歳児の手を借りずに、主体的に材料を選び自分のつくりたいケーキをつくって遊ぶ3・4歳児の姿が見られた。

12月は、『たこあげわくわくたいむ』として、5歳児が3・4歳児にたこあげの仕方や片付けの方法を教えたり、サポートしたりするなど、5歳児としての自覚や自信に満ちあふれた姿が見られた。異年齢で日本の伝統的な遊びを楽しむことができた。

4歳児は、ひもごまの回し方を5歳児に1対1で教えてもらった。ひもの巻き方やこまの投げ方などを丁寧に教えてもらうことで、憧れの気持ちを持ち、自分なりに挑戦しようとする姿につながった。

3学期も、全学年でマラソンや体操をしたり、生活発表会のオープニングでは、日頃積み重ねてきた体操をしたりして、互いに育ちあう姿を保護者の方に見ていただくことができた。

生活発表会後は、『わくわくたいむ』で各学年の劇遊びを取り入れ一緒に遊んだり、5歳児が楽器の使い方を3・4歳児に教えたりし、互いの興味・関心の高まりにつながった。

年度当初から教職員で計画的に立案したり、週1回の保育の打ち合わせで見直したりするなど、教職員で連携を図りながら丁寧に異年齢の活動を積み重ねてきた。5歳児は年下の友達に優しく関わったり、気持ちを汲み取ったりする思いやりの心が育まれる機会となった。4歳児は、5歳児の姿に憧れ、模倣しながら3歳児に実践するようになった。3歳児は4・5歳児の遊ぶ姿に刺激を受け、身近な環境への興味が広がった。温かい関わりが安心感へとつながり、楽しい園生活を過ごすことへつながっている。

次年度への改善点

【取組内容①】について

- ・全国各地で地震が起きていることもあり常に危機感を持ち、引き続き保護者啓発の在り方について工夫し、保護者の防災意識を高められるようにしていく。今後も、教職員が防災意識を高め、連携を図り、常に危機感をもって対応できるスキルを身につける。

【取組内容②】について

- ・引き続き、教職員間で共通理解を図り、計画的に取り組み、環境を整えて保育内容の充実を図る。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。</p> <p>○ 今年度の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者に対して、基本的な生活習慣が身につくように、分かりやすく伝えていきますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>就学前教育カリキュラムを活用し、子どもの発達段階を捉え、教育内容の発信を工夫する。</p> <p>指標 年20回以上、子どもの育ちを発信する。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>子どもの実態に照らし合わせて保健指導の工夫・実践と共に教職員間の連携を図り、家庭啓発を工夫していく。</p> <p>指標 発達段階に応じた保健指導を年30回以上行い、また保護者への発信を年に12回以上工夫して行う。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>○ 「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」 ・・・100%</p> <p>○ 「幼稚園は、子どもや保護者に対して、基本的な生活習慣が身につくように、分かりやすく伝えていきますか」・・・100%</p> <p>【取組内容①】について</p> <p>保育案の作成やドキュメンテーションの作成時において、就学前教育カリキュラムを活用することによって、子どもたちの育ちについて『知・徳・体』を発信することに努めた。3歳児は、安心感をもって園生活を送ったり、基本的な生活習慣を身に付けたりすることが今後園の生活の基盤になることや、学習意欲につながっていくことを発信してきた。また、学級懇談会では、大阪市が独自で編成した『就学前教育カリキュラム』という教育課程があることを知らせた。子どもの育ちや、『知・徳・体』の視点で、日々の教育・保育を捉えて、バランスよく総合的に育むことをリーフレットを活用しながら話をした。『知・徳・体』について保護者に理解していただけるように、普段遊んでいる子どもたちの姿の写真を用いて発信し、その後のクラスだよりでも継続して発信してきた。2学期も引き続きクラスだよりの中でどの子どもの姿が『知・徳・体』につながるのか分かりやすく発信した。</p>

4歳児は、5歳児になるための基盤であることを踏まえて、バランス良く活動に取り組み、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりする習慣を身に付けられるような保育を検討してきた。また、クラスだよりや毎日の降園時に子どもたちの些細な姿を伝え、『知・徳・体』につながっていることを発信している。

5歳児については、小学校生活のつながりを意識した保育を行ってきたが、今後いろいろなことを経験できるように努めていく。子どもの育ちについては、月1回の保育室降園では、実際に子どもが活動している写真を用いて言葉を添えて伝える等、保護者が分かりやすいことを意識しながら作成したり、毎日のクラス降園の際に子どもの達の遊びを紹介し、どのように『知・徳・体』につながっているのかを発信したりするようにした。さらに、6月には地域支援を活用し、府立支援学校の先生に来園して頂いたことや、7月の巡回相談などで子どもへの個別の援助の仕方や関わり方、教材内容などを教えて頂いたことで、教師自身が改めて保育内容の見直しや子どもへの関わり方を見直すきっかけになった。またクラスだよりでは子どもの姿からどのように『知・徳・体』につながっているのか発信し、子どもたちの成長を感じられるようにしたり、就学にむけて保護者の方も意識して関わられるようにした。

9月には5歳児が絵本の中に出てくるケーキに興味をもったことから、子どもたちから遠足でケーキ屋さんに行きたいとの提案があり、実際に行くことになった。実際にケーキを見たり、店員さんやパティシエさんに質問したりして、ケーキをつくる過程を知ることができ、つくりたいケーキのイメージを広げながら、かいたり、つくったり、遊んだりする姿や学びにつながった。

12/5に行われた作品展では、北中道小学校の校長先生や教員の先生方が数名来園し、子どもの作品を見てもらう機会を得た。子どもたちの作品を見て、一人一人の子どもが思いをもって作品づくりに取り組み、自分なりの表現を引き出すために教師がどのような働きかけをしているか、興味をもったことにじっくりと取り組めるような環境の構成や指導の在り方を工夫している幼稚園教育について理解していただくきっかけとなった。

好きな遊びや活動を通して、『知・徳・体』をバランスよく育むことができるように、それぞれの発達段階に応じて保育を進めることを意識し、小学校生活に向けて保育の充実を図ることを心掛けた。

2/10に行われた生活発表会では、それぞれの発達段階に合わせた取り組みを保護者の方や、地域の方、北中道小学校の教頭先生に見ていただき、子どもの育ちについても発信する機会となった。これまでの取り組みについて、丁寧に記載したものをプログラムと一緒に配布した。生活発表会後の保護者アンケートから、子どもの心が育ったことや、友達と一緒にいきいきと活動する姿を実際に観ていただいたことで、成長を感じたという声を聞くことができた。改めて、子どもの育ちを伝えることが教育理解につながると考えている。

2/17は、5歳児が北中道小学校に行き、1年生の授業の様子を見たり、学校探検をしたりして、小学校生活を知る機会となり、就学に向けて期待をもつ姿につながった。

年間を通して月に1度『クラスだより』『園長室だより』『ほけんだより』また、保育室降園で発信してきた。学期末には、園長が子どもの育ちを具体的に保護者に向けて発信したり、パワーポイントを用いて子どもたちの姿を知らせたりしたことで、遊びを通した一人一人の子どもの育ちについて明確に示すことができた。

【取組内容②】について

4月…和式トイレの使い方（4・5歳児）、発育測定を受け方（3歳児）

5月…手洗い・うがい 6月…プライベートパーツについて

7月…熱中症予防 8・9月…早寝・早起き・朝ごはん

10月…けがと手当の予防について 11月…歯の健康について

12月…食べ物について 1月…風邪の予防について 2月…排便について

3月…成長の喜び（実施予定）

各学年それぞれに毎月保健指導を行った。視覚的教材やクイズ、パネルを活用し、遊びを通して子どもたちが楽しく学べるようにした。今年度は大阪市学校保健推進体制事業として大阪市総合教育センターの養護教諭アドバイザーの先生方2名に指導いただき、保健指導案の書き方や、教材、パワーポイントをはじめとするPC指導をいただいた。パワーポイントではクイズを必ず入れて子どもたちが考えられるようにしたり、パワーポイントに文字は入れないというような指導をいただいた。保健教材の指導では、1年間の保健教材を作成し、養護教諭自身が健康や身体の正しい知識を得ること、子どもたちが活動できるような教材を作るように指導いただいた。保健室前の掲示板に子どもたちがめくったり、動かしたりできるような教材を掲示することで、子どもたちが遊んでいる姿が見られた。保健指導を行っている際に見ていただき、養護教諭が子どもの関係のない発言まで拾ってしまうことから、指導時間が長くなったり、子どもがヒートアップして話が広がってしまうため、後ろのほうにいる子どもや発言のしていない子どもに目を向けるようにしたり、子どもができたことに対しては「できたね」と褒めたりすることを指導いただいた。また、面談を実施し幼稚園の養護教諭としてどのように在るべきか、どのように立ち振る舞うかなど養護教諭の役割と職務について学ぶ機会となった。

3歳児は手洗いの時、養護教諭が『あわあわ手洗いの歌』を一緒に歌って手洗いをすることで手洗いの方法が身につけている様子が見られた。また、6月以降、歯磨きの指導を担当と養護教諭が日々連携を図り、継続して養護教諭が歯みがき指導を行ったことで、みがき方が身につけている様子が見られた。10月半ばからは、手洗い場で食べ終わった子どもから積極的に歯みがきをする様子も見られ、歯みがきはかなり定着してきている。また、熱中症予防の話をした際に汗の拭き方について話したことで、汗を拭く姿が見られた。

4歳児は、プライベートパーツや暑さ指数の掲示板を確認している姿が見られたり、「今日の暑さ指数は赤（危険）？」と質問したりするなど興味を持っている様子が見られた。また、熱中症指数計の音が鳴ると「お部屋入らなあかんで」と自分の命を守ろうとする行動も見られた。

5歳児は、保健指導の内容を少し変えている部分もあるが、3・4歳児の時の積み重ねもあり、覚えていることを発言したり、家庭で話したりしているというような発言も見られた。また、プール遊びが始まる前にはプライベートパーツの保健指導を行ったことで自分の体が大事であることや、自分以外の友達や先生の体は勝手に触らないなど普段の関わりの中でも意識できるようになった。就学に向けて、プールの着替えの際や内科検診の際にパーテーションを使って配慮をした。

6月には、園歯科医に来園していただき、保護者向けに『口腔発達について』の講話と子どもたちの仕上げみがきの仕方を教えていただいたことで、家庭で仕上げ磨きをさせてくれたり、床に寝転んでの仕上げみがきができるようになったりしたと保護者からアンケート

ートで声があった。夏休みには『けんこうカレンダー（歯みがき）』を配布し、保護者からは「毎日歯みがきががんばってました」、「色塗りしたくて苦手な野菜をがんばって食べていました」という声も見られ、家庭の様子を知ることができ、今後も家庭と連携できるように工夫していく。

また、けがについての掲示板を作成して、学年別に身体の中の部位をけがしたのかわかるようにした。保健室で処置した際に子ども自身に問いかけながら、自分の学年カラーのシールをけがの部位に貼ることで、身体の中の部位の名前を知ることや、自分で正確に伝えようとする態度、「身体の前側がいっぱいけがしてるなあ」など、どのようなけがが起こっているのか考えるきっかけに繋がっている。

7月には、熱中症予防についての話をした際に暑さ指数の話をした。暑さ指数のパネルを保健室前に掲示すると、帰る前や玄関を通った時に暑さ指数を確認する様子が見られた。

8月下旬に夏休みが明け、幼稚園の生活が始まった機会に早寝・早起き・朝ごはんの指導を行った。指導後、子どもたちから「朝ごはんスイッチ入った！」「昨日8時に寝た！」など、早寝早起き朝ごはんの大切さを理解し、意識する様子が見られた。

10月には、11月の運動会に向け活動量が増えることから、けがの手当てと予防について指導を行った。パワーポイントを用いて行ったが、楽しそうにクイズをしたり、養護教諭と一緒に「鼻を押さえてみよう」と実践を取り入れるようにした。クイズの際には、どうして鼻血のとき、上を向いたらいけないのか、どうして転んだところを水で洗い流すのか具体的に話したことで、子どもたちが鼻血が出たとき下を向いてつまんだり、転んだときなど、洗いに行く様子がうかがえた。指導後も担任や養護教諭から「がんばったけがだよ」、「これはざんねんなけがだよ」と遊びの中で保健指導の内容を用い、応急処置の際にも個別の声かけを行っている。5歳児はチャレンジ遊びの際に友達と言い合う姿を見たり、担任が子どもに話している姿を見かけたり、意識するようになっている。また、幼稚園の実態に合わせて、歯みがきのときは立ち止まることや、上靴を履くことを話し、登園したらまず上靴を履くという様子が1学期よりも見られた。

11月には歯の健康についての保健指導を行った。10月と同じくパワーポイントを用いて、発達段階に合わせた内容で保健指導を行った。クイズでは3歳児は自由に発言する様子が見られ、4歳児では自分の知っていることを発言していたり、5歳児では友達と話し合ったり、じっくり考える様子が見られた。実際に歯ブラシとコップを持っていき、歯みがきを実施した。3・4歳児には、養護教諭からも「ここだよ」「出来てるよ」と声かけをしたり、力強くごしごしとみがいている子どもには「優しくみがくよ」と養護教諭がみがいたりした。5歳児には歯の役割や生え替わりについてもわかりやすく伝えた。自分の状況と重ねて関心を持って聞く様子や、態度が見られた。

12月には、食べ物についての保健指導を行い、養護教諭アドバイザーの先生からいただいた「ばっかりくん」の紙芝居に出てくる3色レンジャーのキャラクターを用いて、好き嫌いせずなんでも食べることが大切だと伝えた。4歳児から「紙芝居に出てきた3色レンジャーだ〜！」「3色レンジャー覚えてるで」などと紙芝居から3色レンジャーが飛び出てきたようなワクワク感や、今年の保健指導の積み重ねもあり、子どもの育ちが見られた。

1月には、風邪の予防についての保健指導を実施した。風邪の症状や原因を理解しやすいう、子どもたちの発言から風邪をひいたらどうなるかを確認し、絵本を用いて風邪は『かぜきん（ウイルス）』が体内に入って起こることを確認した。また、話しているとき・咳をしたとき・くしゃみをしたときそれぞれに飛ぶウイルスの飛距離を視覚教材を用いて

伝えた。可視化することで『かぜきん』から身を守ろうとする態度が見られた。咳エチケットや正しく鼻をかむこと、換気を行うことで感染拡大防止につながることを確認した。実際に保健指導で一緒にやったことを実践しようとしたり、友だちに教えてあげたりする子どもの様子も見られた。

2月には、排便についての保健指導を行った。手作りの便の模型を用いて行ったことで興味を持って話を聞いており、指導後に模型を触ったり、「粘土で出来てるわ！」と話したりする姿も見られた。

保護者啓発として、時期に応じた内容や保健指導の内容、保健指導の様子、流行中の感染症について掲載した保健だよりを発行している。保健指導で使った教材は保健だよりに掲載したり、保健室前にも掲示したりしている。また、保健指導の様子をホームページでも掲載している。

作品展では『保健コーナー』を設け、保健指導で用いた教材や指導内容の展示も行った。また、子どもが実際に視覚的教材を使って遊ぶ姿から、保護者にも遊びから学んでいる様子を知っていただく機会となった。アンケート結果からも読み取れた。

2学期終業式には、スライドショーを用いて、『幼稚園における保健指導について』の保護者講話を行い、普段の保健指導や、検診前の事前指導の内容、様子なども伝えた。「幼稚園で行う保健指導について理解が深まった」の項目では、「思う」、「そう思う」と回答した保護者が100%、「今後家庭でも取り入れていこうと思った」の項目では、「思う」が100%であり、効果的な啓発となった。アンケートの自由記述欄では、「保健指導で学んだことをよくお家でも話してくれます」「先生に教わった手洗いや歯みがきを家族に教えてくれます」などと保健指導で学んだことを家庭で話したり、実践しているという声が多数あった。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・保護者へ就学前教育カリキュラムを周知すると共に幼稚園側も小学校教育について学びを深めることに意義があると考えている。近隣小学校と連携を図り、次年度への取り組み内容について検討する機会をもちたいと考えている。
- ・毎月末の保育室降園で、保護者に向けて『就学前教育カリキュラム』を活用しながら、保育が子どもの育ちのどこにつながっているかわかりやすく知らせる工夫を継続して行っていく。

【取組内容②】

- ・3～5歳児それぞれの発達段階に合わせ、同じ項目でも話の内容や長さ、保健指導の教材を工夫して行う。
- ・引き続き、家庭や担任と連携を図りながら、実態に合わせた指導、継続した声掛けや指導を行う。

大阪市立北中道幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 今年度の本園教職員アンケートの「園内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的に答える教職員の割合を90%以上にする。</p> <p>○ 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の資質向上を目指し、主体的に園内研修・教材研究に取り組む。</p> <p>指標 園内研修年間計画に基づいて、年7回以上園内研修を行う。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協同した教育の推進】 地域に開かれた幼稚園を目指し、教育内容の発信を工夫する。</p> <p>指標 年間30回以上HPなどで、教育内容を発信する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>○ 「園内研修が充実していたと思うか」・・・100%</p> <p>○ 「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」・・・100%</p> <p>【取組内容①】について</p> <p>○今年度『第75回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会（大阪大会）公開保育を実施するにあたり、園内研修を行うことができるように年間計画を立案した。</p> <p>①元大学講師の先生による指導研修 5/12・5/23・6/24・6/30・9/10・9/18・10/20・11/11 11/13</p> <p>②大阪市総合教育センター指導員の先生によるOJT（2年次研修）・・・6/27・7/10</p> <p>③園内での教材研修・・・7/23</p> <p>④園内研修・・・9/8（5歳児）・11/19（4歳児）・12/16（4歳児保健指導）・ 1/14（3歳児保健指導）</p> <p>⑤大阪市総合教育センター指導員の先生による指導要請・・・10/10</p> <p>⑥第75回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会（大阪大会）公開プレ保育実施 ・・・10/31</p> <p>⑦第75回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会（大阪大会）公開保育実施 ・・・11/13</p> <p>○養護教諭・養護助教諭資質向上に向けての園内研修について実施</p> <p>①大阪市学校保健推進体制支援事業 6/2・6/6・6/17・6/24・7/1・7/10・7/14・8/18・9/29</p>

7月はOJT（2年次研修）と重ねて園内研修を行った。大阪市総合教育センター教育指導員の先生に来ていただき、かいたり、つくったり、遊んだりすることへの現状の実態の把握と課題、保育案の書き方などについて指導いただいた。また、各組が設定保育を行っている様子を元大学講師に見ていただき、活動の導入方法や取り組み方などを指導してもらった。柔軟な考え方、教材の準備の仕方や使い方、幼児への接し方や助言の仕方など具体的に教えていただくことで、様々な視点から学ぶことができた。絵の具の濃度や環境の再構築の大切さ、導入の在り方など、幼児の実態に照らし合わせて保育を行う柔軟な考え方を学んだ。園内研修を行うことで、遊びの展開の仕方や教材について教師自身が試行錯誤し、話し合ったり、試したりする機会が増えた。クラス担任の教師のみならず、養護教諭も園内研修を行っている。ビデオで保育や保健指導の様子を録画し、自園独自の園内研修シートを使って振り返りを行っている。自身の保育を俯瞰して捉える機会を持つことで、幼児の実態を捉えることの大切さや、適した言葉かけ、環境の在り方について学ぶことができた。又、園内研修を行うにあたり、どうすれば子どもたちに分かりやすく伝えることができるのか、自分なりに教材を用意したり、シミュレーションをしたりするなどしてきた。

園内研修の一環で教材研究を行い、互いに保育を見合うなどして、資質向上に努めた。各担任が技法や描画についてのやり方を学んだり、絵の具の濃度や色合いの違いなどを試したりすることで、2学期からの絵画へと生かすことができた。また、今まで使用したことのない教材を使ってみることで、教師自身も感動したり、楽しさを味わったりすることができた。

3学期になり、劇遊びの道具づくりなどでは、今までの製作活動等で取り組んできたことをいかし、子どもたちも今までの実践を積み重ねることへとつながった。

養護教諭のスキルアップとして、大阪市総合教育センターより、教育指導員と大阪市養護教諭アドバイザーの先生方2名に来園いただき、パソコン業務を始め、養護教諭としての仕事のあり方、教材についてなど指導いただき、資質向上へとつながった。

【取組内容②】について

○高齢者施設ハミングベル中道への訪問

…6/16（5歳児）・7/4（5歳児）・12/2（4歳児）・3/9（3歳児）

6月は5歳児が地域の高齢者総合福祉施設『ハミングベル』を訪問し、七夕飾りや幼稚園で収穫したピワを施設職員の方々に届けた。

7月の訪問の際には、七夕の歌や手遊びを披露して、高齢者の方々に喜んでいただいた。一緒に歌ったり、手遊びをしたり、高齢者の方々の温かい眼差しを感じ、ふれあうことで、園児がハミングベルの方々の存在を身近に感じられる機会となっている。

12月には4歳児が訪問し、手遊びなどを一緒に楽しんでいただいた。園児も以前訪問したことを覚えていて、親しみをもって高齢者の方々と触れ合うことを楽しむことができた。

3月には3歳児が訪問する予定である。

○地域『和太鼓クラブ飛童』との関わり

6月には、近隣の北中道小学校の講堂をお借りして、『和太鼓演奏会』を行った。毎年、地域の和太鼓クラブ『飛童』の皆さまに演奏をしていただいている。10年以上続いている。

る行事となっており、演奏を楽しみにしている園児も保護者も多い。『飛童』さんの力強い演奏やその後、実際に太鼓に触れる機会をもつことで、より親しみや憧れを抱く機会となった。5歳児は太鼓に関心を持ち、6月から樽太鼓で遊ぶなど、主体的に太鼓遊びに取り組んできた。11月の運動会では、創立60周年記念運動会でたくさんの観客に太鼓演奏を見てもらう機会があり、太鼓演奏への自信や喜びにつながった。また、保護者のアンケートでは、太鼓演奏に取り組んでいた子どもたちの様子が詳しく書かれていた。また、異年齢児が5歳児への憧れをもって太鼓演奏を見たり、一緒に太鼓の鳴らし方を教えてもらったりすることで、遊びを通して学ぶ機会となっている。

○未就園児活動

日々の生活の様子や未就園児活動についてなどをホームページでアップし、幼稚園での取り組みを分かりやすく発信している。未就園児園庭開放では、園児が取り組んでいるダンスや体操を一緒に行ったり、園児が歌を披露したり、一緒に手遊びを楽しむなどの活動を行っている。11月、創立60周年記念運動会でのプログラムに参加する機会を設けたり、5歳児が行った園内のコンサートに来てもらったりすることで、教育内容の発信に努めた。

3学期には一緒にマラソンや体操などを行い、日々の幼稚園での生活の一環に触れてもらう経験をもつようにした。

○創立60周年記念運動会

令和6年11月より記念事業委員会を立ち上げた。令和7年11月8日の創立60周年記念運動会では、地域、保護者共に幼稚園の教育について理解をいただく場となった。

○HPを活用し、園の教育内容の発信

教職員が連携を図り、日々の幼稚園生活の様子や教育内容についてHPへの掲載を行った。週に1回以上の掲載を目標としているが、目標通りにできていない事もあった。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・園内研修を計画的に行い、教職員皆が見通しをもって取り組むことができるようにする。
- ・教職員の資質向上のために、園内研修や外部からの推進体制を整えていっている。引き続き、資質向上のために連携を図っていく。
- ・次年度は、近隣の大阪公立大学との交流（学生と園児）をしていきたいと考えている。

【取組内容②】

- ・今後も地域の方々に興味をもっていただけるように、HPなどで園の教育活動や未就園児活動を知らせていくために、HP掲載の頻度を見直していく必要がある。